本年度の重点目標	1　生徒が自ら考え行動し、自分を成長させる力を育てる指導を行う。 2　組織内で協力体制を強化し、業務の効率化と負担の平準化を進める。 3　学校の魅力を発信するとともに、地域や外部機関との連携を深め、学校理解の促進を図る。

No	担当	重点目標	具体的方策	留意事項	中間報告
1	総務課	ＰＴＡ活動の充実	・ＰＴＡ役員を中心に、保護者主体でＰＴＡ活動が行えるようサポートする。	・ＰＴＡ役員会・委員会で事前準備をしっかり行う。	・3回行われた役員会･委員会ともに、早めに資料を準備したので、滞りなく会を進めることができた。
2	教務課	ア　学習指導要領や教育課程に沿った教育活動の実現と安定した教育環境づくり イ　教務関係業務の円滑な運営	・生徒の意欲を引き出す授業の実現に向けて教科内での授業研究を推進する。 ・授業規律の確立を目指し、教科・学科および担任と連携し、教育環境を整える。 ・業務に対して複数人で対処する。	・授業状況を報告し易い環境整備をし、生徒情報を密にする。 ・互いの業務内容の理解を深め、業務全体への気配りを心掛ける。	･授業状況の報告は､活用が減ってきたため、引き続き活用を促していきたい。 ･授業規律の確立において､各分掌と連携し、環境整備に努めたい。 ・円滑な運営ができた。
3	生徒指導課	ア　基本的生活習慣の確立を目指す指導 ・時間を守る指導 ・挨拶の励行 イ　情報モラル、情報リテラシーを高める指導	・朝の登校指導を毎日実施する。 ・風紀委員会による挨拶、遅刻防止の啓発活動を実施する。 ・遅刻数の統計を行い、定期的な遅刻指導に繋げる。 ・自ら進んで挨拶するよう指導する。 ・本校（R7）策定「一宮工科スマホ PC 使用ガイドライン」による啓発指導（HR・集会・保護者会）を実施する。 ・1，2年生を対象とした「情報モラル講話」を実施する。	・生徒自ら、生活習慣を整えることや時間を守る意識を持つことができるよう指導する。 ・入学時や保護者会時において、家庭との連携を図る。	・校門にて登校指導を毎朝実施している。始礼のチャイムギリギリに登校してくる生徒は少なくなった。 ･遅刻して登校する生徒には､生徒の実情に応じて指導している。 ・風紀委員会の生徒が､「時間を守る」｢挨拶をする」｢掃除をする」｢制服を正しく着用する」ことについて啓発活動を行った（９月)。 ・今年度は情報モラル講話を早期（５月）に実施（昨年度は 10 月）したことにより､問題行動の未然防止を図った。
4	生徒会課	ア　魅力ある生徒会活動（学校行事）の充実 イ　部活動の適正な運用と充実	・生徒会執行部を中心に、生徒が主体的に活動できるよう生徒会組織を整備し、多くの生徒が楽しめるよう工夫する。 ・部活動ガイドラインを遵守し、柔軟な運営を心がけるとともに、生徒が充実した学校生活を送れるように努める。	・生徒自身が達成感や充実感を味わうことができるよう促す。 ・生徒が部活動を安心・安全に活動できるよう指導運営する。	・1学期は､球技大会が天候の関係で中止となってしまったが、準備等を生徒会執行部が中心となって進めることができた。 ・各部活動が柔軟な運営を心がけ、生徒が部活動を通して充実感や達成感を得ることで、心身共に成長できる場所となるよう今後も努めたい。
5	進路課	ア　円滑かつ細やかな進路指導 イ　学校の魅力発信	・求人票閲覧アプリ（Handy）等の ICT を活用し、細めな情報提供と情報収集に努める。 ・学校説明会等で、本校の具体的な進路をアピールし魅力の訴求に努める。	・生徒個々が自立し、率先して行動できるように指導する。 ・目標、目的を持った生徒が多く入学するように図る。	・生徒たちが求人閲覧アプリを積極的に活用し、企業研究を行った。 ･学校説明会等で､卒業生の活躍動画等により具体的なキャリア紹介を行った。
6	保健厚生課	かけがえのない命を守るため、自殺予防教育の着実な実施	・1学期終業式、または２学期始業式において自殺予防に関する講話を保健主事が行う。 ・自殺率の高まる９月に不安な気持ちを取り除き、健全な学校生活を送れるようサポートする。	・スクールカウンセラーと相談し、講話の内容を精査していく。	・自殺予防の講話を実施しポジティブ思考を促すことができた。

7	図書情報課	ア　利用しやすい図書館環境の整備と魅力的な図書の充実 イ　愛知エースネット及び教員用端末の活用	・図書館の開館時間をできるだけ確保する。 ・指導要録と連携し調査書を作成する。	・16 時 10 分までの開館に努める。 ・各分掌と協力し、個人情報の取り扱いに注意を払う。	・図書館利用は増加しており、さらなる利用の促進を図っている。 ・蔵書点検を完了し、図書の整理と管理を進めている。 ・情報機器等の不具合に対応し、ICT 環境の整備を進めている。
8	工務課	ア　近隣中学校・保護者への本校理解促進および魅力発信による PR 活動の推進 イ　地域との交流を深めるイベントの開催･参加を通じた PR 活動の推進	・中学生の関心を高め、入学意欲に繋げるオープンスクールを実施する。 ・地域行事への積極的参加による学校 PR を推進する。 ・中学生との対話を通じたものづくりの魅力を発信する。	・WEB 情報・公式 SNS へ誘導する QR コード付き PR リーフレットを活用する。 ・各学科と連携した在校生参加型進学イベントによる本校の魅力を発信する。 ・工程説明を取り入れた作品展示によるものづくりへの関心を喚起する。	・IME 学科説明では、ゲーム機やアプリを題材として、学習内容の理解促進を図った。 ・AU 学科説明では、大阪・関西万博を題材とした港湾・地下鉄整備、パビリオン建設を通し、建築･都市計画の魅力紹介を図る。
9	1年	ア　基本的生活習慣の確立 ・挨拶の励行 ・時間・期限の厳守 イ　学習環境の整備 ・４Ｓ活動の慣行 ・授業への準備	・挨拶を通して、相手に対する尊敬や好意を示し、良好な人間関係の基礎作りをさせる。 ・黒板や掲示物を活用し、行事予定や提出期限の「見える化」を行う。 ・教室等の清掃や教材の管理を徹底させ、学習に取り組む環境を整備する。 ・１０分放課においての学年ルール（スマートフォンを使用しない）を定着させる。	・自ら進んで挨拶のできる雰囲気づくりに努める。 ・生徒自身がスケジュールの管理や行動の先読みができるよう指導する。 ・各教科担当との連携を図る。 ・生徒相互に声掛けができるよう指導する。	・多くの生徒が挨拶ができるようになっている。自ら進んで挨拶のできる生徒を増やしていきたい。 ・1 学期中は遅刻･欠席の生徒も少なかったが、２学期に入り増加傾向にある。(特に悪天時に多く見られる。) ・生徒ロッカーに鍵を設置したことで、教材の管理について意識が高まった。 ・学習意欲の乏しい生徒も少なくない。考査期間中の学習会を通して、学習の習慣を身に付けさせていきたい。
10	2年	ア　基本的生活習慣を確立 ･時間･期限を守る習慣 ・凡事徹底 イ　進路実現に向けての意識構築	・提出物は期限を守ることを第一に考えさせ、遅れが起きた場合放置せず報告・連絡・相談できるよう指導する。 ・挨拶や話を聞く態度、身だしなみなど、社会人としての常識が身に付くよう声掛け指導等の充実に努める。 ・来年の流れを把握させ、インターンシップやオープンキャンパスなど積極的に参加を促し、意識構築に努める。	・時間・期限を守ることにより、計画性・実行力を身に付けさせる。 ・当たり前のことを当たり前にできることが社会に出て役立つことを理解させる。 ・自己理解し、適性を考えさせ、進路実現に向けて適切な指導をする。	・多くの生徒が提出物の期限を守り、行動ができている。一部の生徒が期限を過ぎてしまうが、遅れながらも提出しようと努力する生徒は増えてきた。 ・少しずつではあるが､進路について悩み、相談する生徒が増えている。
11	3年	ア　基本的な生活習慣の確立 ・期限を守る ・凡事徹底	・提出物等の期限間際に提出日を確認するだけではなく、余裕をもって提出できる準備をする。 ・自ら挨拶をする、場面に応じた振る舞いをする、言葉遣いを丁寧にするなど、社会人としての常識を身に付ける。 ・適切な情報提供や本人の希望把握に努め､保護者･学科･進路課と連携し進路実現に向け指導を行う。	・期限を守ることにより、計画性・実行力が身に付くことを理解させる。 ・他人から言われてからではなく、自ら考え行動し、遂行できるようにする。 ・自己を理解し、適性を考えさせ、進路実現に向け適切な指導をする。	・多くの生徒が提出期限を守り行動できているが、生活習慣では遅刻が多いため改善が必要である。 ・言葉遣いでは､慣れない敬語を使っている生徒が増えてきた。 ・多くの情報提供を行うことができたが、限られた期間で情報共有をする時間の確保が困難であった。
12	IT工学科	ア　基礎的 IT スキルを確実に身に付ける学習環境の整備 イ　日常的に活用できる実践的技術力の向上	・基礎科目の演習時間を増やし、理解を深めながら学習を進める。 ・小テストや課題を定期的に実施し、習熟度を確認する。 ・教員の相談時間を確保し、質問しやすい環境を整える。	・個々の理解度に応じて無理なく進める。 ・過度な課題量を避け、継続しやすさを重視する。 ・学習意欲を損なわないよう適切に支援する。	・授業内で演習時間の確保ができている。小テストや課題を定期的に実施し、生徒の習熟度を確認できている。 ・生徒相談のための時間を確保できており、情報共有が必要な場合は、会議の際に共有を図ることができている。

13	機械科	ア　技術者、社会人として必要な力の養成 イ　校外へのＰＲ活動の強化	・５Ｓの徹底を図りながら、コミュニケーション力の向上を図る。 ・地元地域の交流活動の場で、生徒を主体的に行動させる。 ・オープンスクール、中学校説明会等の質の向上を図る。	・実習の点呼等の機会を通し、指導をする。 ・学校外の様々な人と接する状況で、事前指導を踏まえ、自己表現の実現を図らせる。 ・実習室の環境整備を含め、訪問者に工業機械の理解を深めてもらうようにする。	・実習での５Ｓは概ねできている。安全教育の観点からも安全作業に繋がっている。 ・オープンスクールは、生徒・職員が協力しながら、説明・運営することができた。
14	電気科	ア　資格取得指導の充実 イ　キャリア教育の活発化	・第二種電気工事士など、関係する国家資格の意義や必要性を説き、その学びを通じて自己有用感を高める。 ・企業による出前授業や大規模展示会の見学を通じて職業観を育成し、満足度の高い進路の実現に努める。	・生徒同士での教えあいを活発に行わせ、クラスの一体感の醸成につなげる。 ・幅広い業種や職種にアンテナを張り、選択肢を広くとれるよう指導する。	・第二種電気工事士について、２年生は 60%以上の合格を達成した。上位の第一種に意欲を示す生徒も多い。 ・３年生が AXIA EXPO 2026 と中部電力への見学を行い、２年生は明電舎の出前授業を受講した。
15	建築デザイン科	建築デザイン科の魅力発信	・オープンスクール、一工祭などを通して、建築デザイン科の魅力を積極的に PR する。	・生徒自身が建築デザイン科の魅力を発信できるよう努める。	・リバーサイドフェスティバルに参加し、地域への魅力発信ができた。 ・オープンスクールで、生徒主体の学校説明をすることができた。
16	都市工学科	都市工学科の魅力発信	・リバーサイドフェスティバル、オープンスクール、各種メディアからの情報発信による都市工学科の魅力を発信する。	・都市工学科在籍生徒による魅力発信ができるように工夫する。	・リバーサイドフェスティバルへ出展し、都市工学科の取組及び学びに関して発信出来た。 ・オープンスクールにおいては中学生及び保護者へ本校都市工学科での学び及び実現可能な将来像を提示する事が出来た。